



豊玉二中だより

令和5年度 第3号
発行日 6月9日(金)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

運動会を終えて

主幹教諭 池川 健一

5月27日(土)まさに運動会日和といった晴れ渡る天候のなか、第62回運動会が開催されました。制限のない運動会は4年ぶりとなり、保護者や地域の方々、生徒同士の声援が響く運動会がやっと戻ってきました。

「教員が前に出て、生徒を動かすことのない運動会を目指す。」これが、私の目指したい運動会の形です。一つの行事を生徒の力で創りあげる。これは生徒の意識や達成感を高めさせるためです。生徒一人一人が役割を担い、豊玉中生としての自覚を持ち、どんな場面でも主体的に活動していき人になってほしいという願いを形にしたいと常に考えています。

運動会練習が始まる2週間前、実行委員を集め話し合いを進めました。私が話した内容は実行委員の役割分担と運動会までの日程、競技内容、練習の進め方です。それ以外の授業中の内容や運動会練習の時間、学年練習の流れなどは実行委員同士で話し合わせ進めさせるようにしました。初めは戸惑うことや上手くいかず練習が止まってしまうこともありました。それでも実行委員は最後まで自分のクラスに足りないものや学年で必要なことを考え、やりきりました。回数を重ねるごとに効率の良い練習を行い、また話す内容にも気持ちが入るようになっていました。それに応えるように、周りの生徒が用具の準備をしたり、作戦を一緒に考えたりと手伝う姿が多くみられました。生徒一人一人の意識の変化が現れた結果だと感じました。

運動会当日、実行委員を中心に係生徒による進行で運動会がスムーズに進んでいきました。それは、予行練習で上手くいかないところを係生徒と担当の先生方で打ち合わせを行い修正した結果です。その時何をすればよいのか、またどのようにしていけば上手くいくのかを考え行動することができていた部分に成長を感じました。敵味方関係なく、互いにたたえ合う姿がとても印象的な運動会となり、生徒は達成感や成就感を味わえた貴重な一日となったと思います。今回の経験を今後の学校生活でも生かしていけることを願っています。

3年生はコロナの影響で毎年違う運動会を経験してきました。「普通の運動会」の基準が分からず、戸惑うこともあったと思いますが、競技だけでなく、係の仕事など後輩の見本となる動きを示してくれました。感謝しています。これからも、後輩の見本となる姿を見せてくれることを期待しています。

最後になりますが、運動会練習期間から当日まで、本校の活動にご理解とご協力頂き、また当日温かい応援をしてくださった保護者の皆様、地域の皆様はこの場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。